

月例経済報告（2022年9月）

● 月例経済報告（9/30）

<p>基調判断</p>	<p>(9月) 景気は、緩やかに持ち直している。 ウイズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。</p> <p>(8月) 景気は、緩やかに持ち直している。 感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等を背景とした海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇による家計や企業への影響や供給面での制約等に十分注意する必要がある。</p>
<p>個人消費</p>	<p>(9月) 緩やかに持ち直している。</p> <p>(8月) 緩やかに持ち直している。</p> <div data-bbox="660 521 1386 927"> <p style="text-align: center;">消費総合指数と実質総雇用者所得</p> </div>
<p>設備投資</p>	<p>(9月) 持ち直しの動きがみられる。</p> <p>(8月) 持ち直しの動きがみられる。</p> <div data-bbox="660 927 1386 1332"> <p style="text-align: center;">製造業・非製造業の設備投資(名目額)</p> </div>
<p>住宅建設</p>	<p>(9月) 底堅い動きとなっている。</p> <p>(8月) 底堅い動きとなっている。</p> <div data-bbox="660 1332 1386 1738"> <p style="text-align: center;">住宅着工戸数(季節調整値)</p> </div>
<p>雇用情勢</p>	<p>(9月) 持ち直している。</p> <p>(8月) 持ち直している。</p> <div data-bbox="660 1738 1386 2136"> <p style="text-align: center;">雇用者数、就業者数の推移</p> </div>

生産	(9月) 持ち直しの動きがみられる。	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2009年7月から2022年8月までの鉱工業生産、出荷、在庫、および在庫率の推移を示しています。左側の縦軸は生産と出荷（目盛右）を、右側の縦軸は在庫と在庫率（目盛右）を示しています。在庫率は2010年頃に急激に上昇し、その後比較的安定しています。生産と出荷は2010年以降、持ち直しの動きが見られます。</p>
	(8月) 持ち直しの動きがみられる。	
輸出	(9月) おおむね横ばいとなっている。	<p>地域別輸出入数量指数 (2015年=100) ①輸出</p> <p>このグラフは、2008年4月から2022年8月までの地域別輸出入数量指数を示しています。左側の縦軸は輸出指数（目盛右）を示しています。全体、アジア、アメリカ、EUの4つの地域に分かれています。アジアは最大の輸出先で、全体の58.0%を占めています。アメリカは17.8%、EUは9.2%、全体は9.2%を占めています。8月の伸び率は、全体▲3.3%、アジア▲7.3%、アメリカ+13.0%、EU▲15.4%です。3ヶ月平均（3MA）は、全体▲0.5%、アジア▲2.4%、アメリカ+3.1%、EU▲1.2%です。</p>
	(8月) おおむね横ばいとなっている。	
国内企業物価	(9月) 上昇している。	<p>企業物価の推移 (2020年=100)</p> <p>このグラフは、2008年4月から2022年8月までの企業物価の推移を示しています。左側の縦軸は輸入物価（目盛右）と国内企業物価、右側の縦軸は輸出物価（目盛右）を示しています。国内企業物価は2010年以降、持ち直しの動きが見られます。輸入物価は2010年以降、持ち直しの動きが見られます。輸出物価は2010年以降、持ち直しの動きが見られます。</p>
	(8月) 上昇している。	
消費者物価	(9月) 上昇している。	<p>消費者物価の推移 (2020年=100)</p> <p>このグラフは、2010年4月から2022年8月までの消費者物価の推移を示しています。左側の縦軸は消費者物価（目盛右）を示しています。生鮮食品及びエネルギーを除く総合（破線）、生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合（太線）、総合の4つの指標に分かれています。生鮮食品及びエネルギーを除く総合（太線）は2010年以降、持ち直しの動きが見られます。生鮮食品を除く総合は2010年以降、持ち直しの動きが見られます。生鮮食品及びエネルギーを除く総合（破線）は2010年以降、持ち直しの動きが見られます。総合は2010年以降、持ち直しの動きが見られます。</p>
	(8月) 上昇している。	
海外経済	(9月) 世界の景気は、緩やかな持ち直しが続いている。 先行きについては、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めが進む中での金融資本市場の変動や物価上昇、供給面での制約等による下振れリスクの高まりに留意する必要がある。	<p>(9月) 世界の景気は、緩やかな持ち直しが続いている。 先行きについては、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めが進む中での金融資本市場の変動や物価上昇、供給面での制約等による下振れリスクの高まりに留意する必要がある。</p> <p>(8月) 世界の景気は、持ち直しのテンポが鈍化している。 先行きについては、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めが進む中での金融資本市場の変動や物価上昇、供給面での制約等による下振れリスクに留意する必要がある。</p>
	(8月) 世界の景気は、持ち直しのテンポが鈍化している。 先行きについては、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めが進む中での金融資本市場の変動や物価上昇、供給面での制約等による下振れリスクに留意する必要がある。	